

令和2年度

岩脇小学校

「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 自分の考えを進んで説明しようとする表現力の育成
- 学習の流れが分かる板書とノート指導の取り組み

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員：尾川和人(校長)・上原小代子(教頭)・橋本幸典(学力向上)・折野美穂(教務)・久米田芳江(特別支援)・阿部ひとみ(研修・2年)・宇野佐和子(4年)・森下淳子(6年)

校長 尾川 和人 印

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

研究授業(大研・小研)や職員研修等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>(1)知識・技能の習得</p> <p>○漢字の読み書きや簡単な計算は、おおむね習得できている。</p> <p>●空間図形や量と測定の領域に苦手意識を持つ児童が見られる。書くことに抵抗感がある児童も見られ、語彙も少ない。</p>	<p>・基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、それらを自主学習ノートや作文・日記に進んで活用できる。</p> <p>・習得した知識を他の教科でも応用することができる。</p>	<p>・テーマ日記・読書日記や行事作文に取り組み、既習の漢字や語彙の定着を図る。</p> <p>・課題や条件に合わせてノートに学習のまとめをさせ、適切に表現する力を身につけさせる。</p> <p>・算数の問題を自作させ、子どもたち同士で考えさせる。</p> <p>・新聞の切り抜き・新聞感想文コンクールに応募する。</p>			
<p>(2)思考力・判断力・表現力等の育成</p> <p>○いろいろな場や方法で、表現する児童が増えてきている。方法や手順がわかると真面目に取り組んでいる。</p> <p>●課題や目的に応じて聞き取ったり、他人の意見と自分の考えを比べたりする力が十分でない。</p>	<p>・課題や目的に応じて筋道を立てて考え、理由や根拠を明らかにして、自分の考えを進んで表現し、課題が解決できる。</p> <p>・TPOを考慮し、5 W1Hを明確にした言語活動ができる。</p>	<p>・教材や発問を工夫し、筋道を立てて考えられるようにする。</p> <p>・授業力チェックシートで定期的に授業を振り返り、研修を通して有効な手立てを共有する。</p> <p>・板書の構造化を図り、めあて・思考・まとめのノート指導をする。</p> <p>・ペアトーク・グループ討論・ディベート・ホワイトボードミーティング・ICTを活用した授業に一日一時間以上取り組む。</p>			
<p>(3)主体的に学習に取り組む態度の育成</p> <p>○家庭学習や基本的生活習慣は定着している。与えられた課題については、最後まで取り組む。</p> <p>●自分から進んで課題を見つけて取り組むことが苦手である。家庭での読書時間が少ない。</p>	<p>・家庭学習では進んで課題に取り組み、苦手な課題にも根気よく取り組むことができる。</p> <p>・家庭でも進んで読書をしたり、興味・関心を持って新聞を読み、社会の動向に関心を持つようとする。</p>	<p>・3年生以上に自主学習ノートを持たせ、達成冊数や内容の優れている例を紹介する。</p> <p>・あらゆる機会に読書時間を確保する。</p> <p>・子どもたちによる読み聞かせ活動を積極的に取り入れ、高学年は低学年にも行う。</p>			

令和2年度 学力向上ロードマップ



